

## 荒川における減災のためのソフト対策のあり方に関する懇談会 第3回

- ・実施日：平成28年10月25日（火） 13:30～15:00
- ・場 所：さいたま新都心合同庁舎 2号館 5 F 共用小研修室 5 D
- ・出席者：別紙のとおり

### ◆開催状況



### ◆懇談会内容

- 1) 今年の主な出水について
- 2) 荒川水系（埼玉県域）の減災に係わる取組方針について
- 3) これまでのご意見等を踏まえた今後の取り組み（案）
- 4) 意見交換

### ◆懇談会結果

- ・今年の主な出水や減災対策協議会における取組方針、第2回懇談会で頂いたご意見への対応案を事務局より共有し、意見交換を行った。
- ・今後、出水期前に減災対策協議会の開催に合わせて懇談会を開催することが了承された。

### ◆主なご意見等

#### ● 減災対策の取組方針について

- ・公助のメニューについて整理されているが、それで課題が全部達成されるとはいえない。自助の意識を高める取組がもっと必要ではないか。行政側が出来ることの限界を示すことも必要ではないか。

#### ● メディアへの情報発信について

- ・災害時の情報について、国管理河川と県管理河川とで、情報を出すタイミングや内容が違っており、受取る側としては混乱した。なるべく情報を一元化する工夫はできないか。
- ・一元化できる情報と出来ない情報を整理する必要があるのでは。

#### ● 洪水予報文について

- ・現状の洪水予報文の形式を変えることが出来ないのであれば、それより前に「～～水位に達しました●●してください。」といったシャープな1枚を追加してはどうか。現状の予報文を含め、詳しい資料を参考資料として添付してはどうか。参考資料としては今回の添付資料で十分。
- ・住民たちへ下ろすところまで意識した簡潔でわかりやすい資料であれば、様々なメディアで国が出した資料をそのまま使うことで正確に、手早く伝えられる。
- ・予報文は時間区切りでなく、災害状況の変化によって出すものなので、状況が変化した時間がいつなのか強調してわかりやすくしてほしい。
- ・用語についても一般的に使われている言葉を意識することが必要。例えば、「洪水」という用語は一般的には川から水があふれることとされるが、業界では「増水」と同じような意味で使われているのではないか。

- 
- ・洪水予報文の改善案については、まだ分かりづらいのもっと内容を議論するような場が必要。その際、洪水予報文に対する自由度を示してほしい。

- **防災教育**

- ・防災教育について、今回紹介されたような資料を学校の全ての先生に理解して頂き、新たに教育課程に入れてもらうのは難しいので、出前講座等により国土交通省の職員が授業する取組みが必要ではないか。その様子をマスコミ側が取材することで良いPRとなる。
  - ・防災を授業で取り上げてもらう取組みと、国交省自らが説明することと、両方があっていい。
  - ・気象キャスターネットワークでも、気象や防災についてVTRや実験等を活用した出前講座を実施しているので、総合授業で活用して頂くことも可能。
  - ・「荒川検定」や「荒川博士」のような仕組みを作り、荒川に詳しい方を育て、その方達が説明者になってもらうような取組みがあってもよい。
  - ・学校の避難訓練について、地震だけでなく洪水時の避難訓練も実施してはどうか。
-

## 荒川における減災のためのソフト対策のあり方に関する懇談会 第3回

## 出席者

(五十音順・敬称略)

## 委員

所 属	役 職	氏 名
NHKラジオ	気象キャスター	伊藤 みゆき
埼玉大学大学院 理工学研究科	准教授	小嶋 文
(株)テレビ埼玉 営業局	営業部長	高橋 英彦
東京大学大学院 工学系研究科	准教授	知花 武佳
(株)FM NACK5 放送本部	編成制作部長	深川 聡
(株)埼玉新聞社	編成局長	吉田 俊一

## オブザーバー

所 属	役 職	氏 名
さいたま市 総務局 危機管理部	防災課長	松田 圭司
川越市 防災危機管理室	室長	市ノ川 千明

## 荒川上流河川事務所（事務局）

所 属	役 職	氏 名
荒川上流河川事務所	所長	加藤 智博
〃	副所長	塚本 十三
〃	計画課長	吉井 拓也
〃	防災情報課長	豊田 浩